

平成25年度 市長とのタウンミーティングの開催状況

市民参画型のまちづくりを目指すため実施している市長とのタウンミーティングについて、昨年度の4会場から10会場に開催回数を増やし、25年度の佐渡市の5つの主要施策をテーマに開催しました。

390人の方々からご参加をいただき、市長が直接対話しながらご意見を伺うことができました。いただいた貴重なご意見等を今後の市政運営に反映させていくよう努めます。

主な意見交換

【市民】 地域過疎化の要因は行政が祭りなどのイベントから手を引いたことにある。支

所、センターを

地域活性化の拠点として機能させてもらいたい。

また、センターの建物の話も含めて地域の意見を聞き参加を促す形で進めてほしい。

【市長】 過疎化についてはそのとおりで、合併

が一因と考えている。今年から支所・センターの充実に方向を変え、地域と話し合っ

て使える予算もつけた。それと支所長・センター長には地域活性化の自主的な組織の育成も大きな業務としている。各支所・センターのトップ等は地元出身の職員としている。

【市民】 人口減少対策で庁内プロジェクトを立ち上げたというのが遅いのでは。市長を先頭に対応を。今までの実績とこれからの対応は。

【市長】 プロジェクトチームでは大胆に意見を出しながら進めており、今年中にまとめて来年度の施策に反映させる。

人口減少対策としてはI、Uターンに加えてOターン対策が重要。Oターンは二地域居住のことで、大学の学部誘致など、廃校活用も検討しながら進めている。

【市民】 観光のリピーターが少ないというが、観光のあり方を変えるべき。観光バスによる団体客ではなく、エリアを絞り観光客に歩いていただくようにすべき。

【市長】 全くそのとおりで、内容を

見直す必要がある。佐渡は20年の空白を埋めていない。団体客をゼロにできないが、個人・グループ客と団体客の比率も考えなければならぬ。着地型観光のプラットフォームも作ったので、エリアを設定し、3日で回るような観光を作っていかなければならない。

【市民】 佐渡の面積の73%を占める山林の整備に對してもっと目を向け

て支援してもらいたい。

【市長】 里山、里海を守るためにも山に對する支援は必要だがほとんど無く、反省している。今回、竹林50町歩の整備を行う。佐渡産材の公共施設での使用など行っているがまだまだなので、もう少し待っていたきたい。

【市民】 日本一子育てしやすい島を

目指してほしい。あいかわ幼稚園とあいかわ保育園の統合も含め市長はどう考えているか。

【市長】 日本一愛される島の一番の要因は「子育て」。お母さん方からの意見も聴かせてもらいたい。保育園、幼稚園は津波対応などで建設場所を協議している。

【市民】 佐渡全体で世界遺産に取り

組むようにすべき。

【市長】 世界遺産、ジアス、ジオパー

クの庁内連携も必要で、手法について練っているところ。また、ロビー活動も重要であるが、その際は市民の盛り上がりが一番大切で、市民一人ひとりの対応も重要となってくる。

【市民】 佐渡は米や金がとれない時に山菜とか薬草を採っていた。薬草で「佐渡おけら」というものは特色があり、とても素晴らしい。羽茂と赤泊で栽培している。このほかにも山の野菜、ワラビ、ぜんまいとかいろいろなものがあり、それらを上手に使い、米以外でできる農業ということも考えてもらいたい。

【市長】 薬草は製薬会社と結び付けて製品化をしていきたい。

それから、佐渡は米が主になって、その次に来るものが柿。ほかにもイチジク、干しシイタケ、アスパラガスの産地ができた。

ただ、関西で洋ナシのル・レクチエを食べていただいて、百貨店で取り入れてくれと言われたが、生産体制が課題となる。そのために農協にも頑張ってもらいたい。皆さんからも声を出していただきたい。

皆さまの貴重なご意見など、誠にありがとうございました。

◆市役所総合政策課広報聴係
☎ 63・3802

